

7. 建設業

受注高・工事施工高の状況

－業況DI、プラス台が続く－

業況DIは+0.8と前期に比べ3.2ポイントの後退となっている。これは前期の見通し+3.2と比べ2.4ポイント下回っている。

受注高DIは+0.8と前期と比べ3.0ポイント改善している。これは前期の見通し△3.2と比べ4.0ポイント上回っている。

工事施工高DIは+2.4と前期と比べ11.1ポイント改善している。これは前期の見通し△6.3と比べ8.7ポイント上回っている。

施工高を受注先別でみると、大企業型においては好転、官公庁型、中小企業型においては改善、個人型においては悪化している。

また職種別でみると、設備工事においては好転、総合工事、職別工事においては改善となっている。

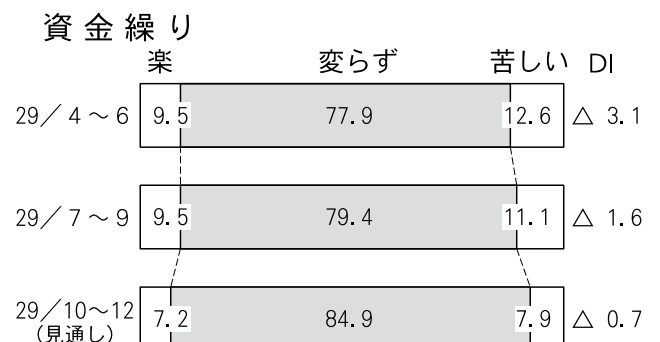
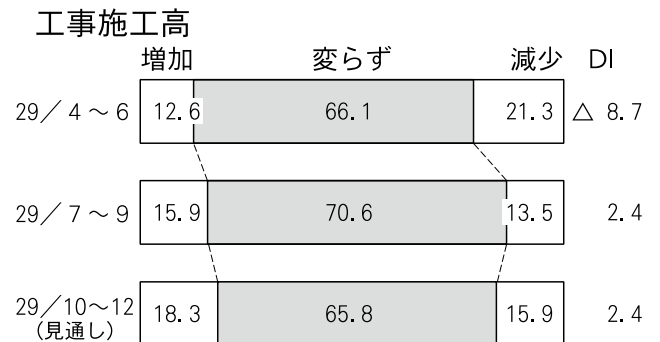
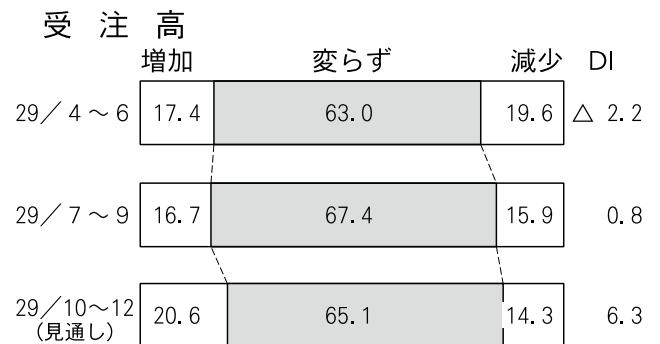
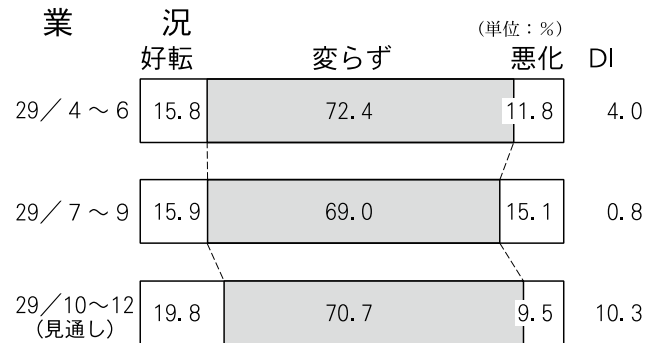
資金繰りDIは△1.6と前期と比べ1.5ポイント改善している。

経営上の問題点は、「競争の激化」51.6%、「受注・施工高の停滞・減少」が46.0%、「人手不足」38.9%の順になっている。

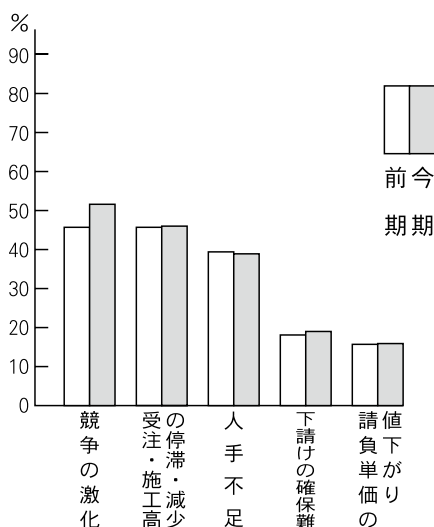
来期の業況DIは+10.3と今期と比べ9.5ポイントの好転を予測している。

〈参考〉職種別業種明細

- ・ 総合工事業…一般土木建築・土木・舗装・しゅんせつ工事業
・ 木造建築工事業
- ・ 職別工事業…大工・とび・コンクリート・鉄骨鉄筋・塗装工事業
石工・レンガ・タイル・ブロック・屋根・板金・金物工事業
- ・ 設備工事業…電気工事・電気通信・信号装置・管工事業・さく井工事業
その他の設備工事業



経営上の問題点



収益の状況

－マイナス台が続く－

今期の収益D Iは△5.6と前期と比べ0.9ポイント悪化している。

来期の収益D Iは△4.0と、今期と比べ1.6ポイントの改善を予測している。

設備投資の動向

今期の実施率は5.6%と、前期の8.7%と比べ3.1ポイントの減少となった。

来期の実施予定は6.3%と、今期と比べ0.7ポイントの増加を予測している。

業界の新しい動き・課題・見通し等…ご意見

- ・若い技術者の不足、労働者の高齢化工事量の減少が課題。(舗装工事)
- ・こだわりのある人・ない人と、お客様の住宅選別が2極化している。(住宅建築)

収益 (単位：%)

	増加	変わらず	減少	DI
29/4～6	11.8	71.7	16.5	△ 4.7
29/7～9	13.5	67.4	19.1	△ 5.6
29/10～12 (見通し)	15.1	65.8	19.1	△ 4.0

請負単価

	上昇	変わらず	下降	DI
29/4～6	4.7	86.6	8.7	△ 4.0
29/7～9	7.9	81.0	11.1	△ 3.2
29/10～12 (見通し)	6.3	83.4	10.3	△ 4.0

材料単価

	上昇	変わらず	下降	DI
29/4～6	16.5	82.7	0.8	15.7
29/7～9	15.9	81.7	2.4	13.5
29/10～12 (見通し)	14.3	83.3	2.4	11.9

設備投資動向

〔今期の実績〕

29/7～9月実績

実施の有・無	内 訳	比率(%)
○実施した 5.6%	事業用土地	42.9
	事業用建物	42.9
	機械の新・増設	28.6
	更 改	0.0
○実施しない 94.4%		

(注) 比率は複数回答です。

〔来期の見通し〕

29/10～12月予想

実施の有・無	内 訳	比率(%)
○計画あり 6.3%	事業用土地	50.0
	事業用建物	25.0
	機械の新・増設	25.0
	更 改	12.5
○計画なし 93.7%		

(注) 比率は複数回答です。